

『異世界にて』

○ファンタジー世界のダンジョン

ゴブリンの群に切り込んでゆく、威勢のいい女戦士。

女戦士「おらァッ！」

杖から炎の魔法を放つ、利発な女魔法使い。

女魔法使い「炎^{ファイアバレット}弾^{バレット}ですわ！」

彼女たちの後方で怯えている、現代日本の服装の若者オームラ。

オームラ「うわあ…」

ナレーション（異世界に来て二カ月。まだまだちっとも馴染めない）

ズン… 通路の奥から大斧を持ったミノタウロスが現れる。

女戦士「ミノタウロスだ！ 気をつけろ！」

ナレーション（怪物だらけの世界にも）

ブウン！ ガキーン！ 大斧の一撃を受け止めて、女戦士はよろめく。

女戦士「クッ！」

じりじりと後退して、壁際に追い詰められる。

女戦士「ダメだ！ オレたちのレベルじゃ歯が立たねえ！」

女魔法使い「オームラ！ 頼みましたわ！」

オームラ「ええっ？」

オームラはポケットから伝票クリップを取り出す。

ナレーション（転移の時にもらったスキルにも…）

みるみる迫るミノタウロスに圧倒されながらオーダー票に急いで書き込む。

オームラ「えとえと、ミノタウロスだから… うわあ急げ！」

ミノタウロスが大斧を振り上げると同時に、ピッと伝票を破り取る。

オームラ「天地万物の無双の厨房よ！ 我が祈り^{アルガスタ}聞き^{ドレイカー}遂げよ！^{ミシヤ} ^{ミシヤ} ^{ミシヤ}」

オームラが伝票を両手で拝むように挟むと、閃光がほとぼしる。

オームラ「オーダー入ります！」

閃光の中、無数の調理器具が乱舞。ミノタウロスがのけぞって吠える。

ミノタウロス「ヴオオオオオオ～～ッ！」

ミノタウロスは消え、石畳の床の上に湯気を立てる料理の皿がずらり。

オームラ「ハンバーグ、サーロインステーキ、牛すき焼き定食、肉じゃが…」

へたり込んだオームラの脳裏に元の世界の職場のファミレスが浮かぶ。

ナレーション（たまに思うんだ。これじゃ元の世界と変わらないって…）

女戦士と女魔法使いが美味しそうに食べながら笑う。本当に嬉しそうに。

女魔法使い「美味しい！ こんなのはじめてですわ！」

女戦士「さすがオームラだぜ！」

オームラ、思わず赤くなる。

ナレーション（けど近頃は、こっちの世界も悪くないかなって、思ってる…）